

新年のいい話 「こんなもの いらない」 2025年1月

あなたにとって「こんなものいらない」はなんですか？という問いをある番組が中学生～大人までにしたことがある。中高生のほとんどが「校則」だった。細かく厳しい校則は窓のない狭い部屋に押し込められているようで心が苦しい・・・とのことだった。大学生～大人までは様々な答だった。かつて身体測定に「座高測定」があったが、いつのまにかなくなっていた。

誰かが「はて？」と思い、よく考えてみると「こんなものいらない」に気がついたのだろう。

大人の答に「痛み」というのが少なくなかった。体の痛み、心の痛み・・・両方ともまさにいらないものだ。幼い頃、転んで膝小僧が痛くて泣いていると、そばにいる大人が「痛い痛いほとんどゆけ～」とおまじないを言ってくれた。すると不思議にいつのまにか痛みが消えている・気の持ちようとはたいしたものだ。だが大人になってから、ふと、あの「痛い痛い」はどこへいったのだろうか？と思った。遠くのお山に飛んでいったのなら・・・その山にタヌキやキツネやウサギがいたら・・・もしかすると山を越えて、どこかの村に飛んでいったなら村には子供も大人もいるのだ。その人達の誰かのところに痛い痛いが飛んで行ったなら大変なことになる。その反対に、いつか突然、自分のところにも誰かの「痛い痛い」が飛んでくるかもしれないのだ。そう思うと「痛い痛い」は空の彼方に飛んで行き、消えてほしいと願うようになった。

「こんなものいらない」の反対に「それ、なくちゃだめ」「これは絶対になくってはだめ」はなんだろう？この質問を誰かにする時は必ず「心にとって、これなくってはだめ」は何ですか？と聞いてほしい。さて・・・あなたはなんと答えるかな？

「誰がこの子を受けとめるのか」という本がある。

「児童養護施設・光の子どもの家」を創設した菅原哲男氏の著書だ。ぜひ、読んでいただきたい。

「誰がこの子を受けとめるのか」という言葉は菅原さんの命がけの大声の叫びだ。

この世に生まれてまもない幼子、生きるすべを何ひとつ持たない幼子にとって何がなんでもなくてはならないのは「親」という存在だ。その存在がいないのだ。死別もあるだろうが・・・幼子の命と心をひき受け、愛おしい思いで育ててくれる「心優しい大人」の存在は、すべての子どもにとって絶対になくってはならない存在だ。

フランダースの犬（パトラッシュ）は生まれて間もなく殴られ続け、草むらに捨てられた。

そして、死ぬのは間違いないという状態だった。

だが、そんなパトラッシュの体と心を生き返させたひとりの老人がいる。

ダースじいさんだ。ダースじいさんはパトラッシュの体を抱きしめ、毎日、毎日、温かな、優しい言葉で話かけ続けた。

そしてとうとう・・・パトラッシュの体の痛みも心の痛みも遠くの彼方に飛ばしてくれたのだ。

「心優しい大人」は子どもの苦しさ、寂しさ、悲しさ「心の痛い痛い」を遠くの彼方に飛ばして消すことができるのだ。

子どもだけではない。痛い痛いを抱えたまま大きくなったしまった子ども

・・・そう、まだ心の痛みが消えていない大人たちも少なくない。

サヘル・ローズさんという方がいる。サヘルさんは7才までイランの孤児院で暮らしていた。

親の顔も覚えていないそうだ。

その後、日本で生きてゆくことになるのだが…それから、虐待・貧困・いじめ…という凄惨な日々を生きねばならなかった。…

だが、彼女は今、まさにローズ・薔薇のように美しく、凜と咲き、多くの子どもたちの幸せをそして世界の平和を本気で願い、懸命に生きている！

サヘルさんと関わることがあるのだが…その優しさ、温かさは本物だ。

本物の本物だ！…今まで、言葉の世界で数えきれない程の人の言葉を聞いてきたのだが…

その中で、サヘルさんの言葉が、れほど心のこもった優しく、温かな言葉であるかはっきりとわかる。

実に実に、はっきりと伝わってくる。日本の言葉でいうとまさに「深い情」が心に届くのだ。

痛い痛いもうすっかりないと思ってた私だが…なんと…なんと…気が付いていなかった傷口がふ〜と吹く春風のように…サヘルローズさんの優しさに包まれ、痛い痛いが飛んでいったのだ。

裕福な家に生まれ、何ひとつ不自由のない子ども時代を過ごせて、大人になっても豪華絢爛な衣服に身を包み…お城のような家に暮らしている人達がいる。

誰もが羨む、人生を生きる人がある…その人達が、どうか「心優しい大人」であってほしいと願う。

子どもが当たり前授かる幸せのほとんどを授からなかったサヘルさんがサヘル（砂浜）に根を張り、懸命に生きている姿に心奮える。体の奥から前に進む力がこみ上げてくる！

自分をもっともっと何かができるような思いが生まれてくる。

恵まれた人達よ、サヘルさんを見てほしい。しっかりと見てほしい。

そして恵まれたその運命^{さだめ}を「痛い痛い」の中で苦しんでいる多くの子どもたちの幸せの為に…
そして世界の平和の生かしてほしい。

もう一人素晴らしい「心優しい大人」がいる！フローラ・ジャスミンさん（サヘルさんの養母）だ。イランの砂漠の砂の中から、一つの命を引き受け、その命を、愛しんで、愛しんで育ててくれた素晴らしい大人がいたのだ！ローズはジャスミンの花を見て咲けたのだ！

子どもの痛い痛いはどんな風で飛んでゆくのか知ってるだろうか？

子どもの心に「楽しい！嬉しい！美しい！」が届いた時だ。それは小さい心に抱えきれない程ある「悲しさ、寂しさ、辛さ、不安」を遠くへ 遠くへ飛ばしてくれるのだ。

どうか、一人でも多くの「心優しい大人」が増えてほしいと心から願う。

その大人達が、こども達に「楽しい！嬉しい！面白い！美しい話」を届けてあげられる本物の「心優しい大人」になってほしい！そのことを本気で願い、全力で、サヘルさんに褒めてもらえる様

「いい話！聞いてよかったいい話・痛い痛いが飛んでいく話」を今年も届けるぞ〜」



2025年 1月 おはなしかご

